

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 倉敷・楽々苑 (Aユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153-1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kami=true&jigyosyoCd=3390200289-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「自然・安心・快適」を元に四季を感じ、安心して過ごして頂けるように、又毎日を快適に過ごして頂けるように職員一同心がけています。
 ご自分の好きなように自由に過ごして頂けるように、又どのように援助していけば楽しく過ごして頂けるかを考えて毎日を振り返っています。
 医療・歯科なども往診して頂いています。体調不良時にも早く対応して頂き、医療面にも安心して過ごして頂ける環境づくりをしています。
 地域の方との交流にも参加させて頂くなどし、楽しく、快適に過ごして頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前向きに職員レベルを上げて、安心できる施設を目指している。一人一人の職員が意識を持って利用者個々に対応し、モチベーションを持ち、蓄積していく気付きを与えている。また、職員同士、経験を共有することから知識を広げ、使命感、責任感、帰属意識のある仲間として、力を合わせて仕事に活かしている。職場内で教えることが学びとなり、挨拶や手振りなどの身近なことで地域を巻き込むゆかり(縁)を深めている。隣接の保育園で試みている家族との絆づくりと同じように、人と人との交流を深め、快感となる職員同士の関係に浸透させている。職員の一人は、「やりがいがあって、楽しいです」と答えてくれた事も施設で働くことで、生き甲斐となっている。利用者もそんな職員に携われながら、日常生活が落ち着き、じっとしていても笑顔が節々に見えていた。安心できる快適な生活が垣間見れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自然、安心、快適」を職員全員が把握し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	法人の理念と事業所の理念をフロアに掲示し朝礼で唱和している。新入職者には、2日間オリエンテーションがあり、OJTで最長2ヶ月間、法人と事業所の方向性を定めている。新年度に年間研修を立て、職員が先生となり、『教えることが学ぶこと』という実践から、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会、行事、小学校の行事、地域活動には参加し、交流を深めている。現在コロナ対応にて参加は控えている。	町内会の回覧板で、地域と情報共有をしている。近隣には田んぼや教会、多くの住宅があり、子供たちと挨拶を交わすことも日常で、今までリアルに付き合ってきた関係性が培われたからである。また、事業所の敷地内に保育園が設立されており、送迎時の挨拶が、職員の癒しになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のお祭りや、教会のバザーやお祭り、小学校行事に積極的に参加し、地域貢献している。現在コロナ対応にて参加は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。他職種の方の参加をいただき、意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。コロナ対応の為、実施延期が続いている	リアル開催に繋げようと、密を避けるため分割開催をしている。従来の関係機関に電話をかけ、季節の挨拶として参加者が来場する中で情報交換を断続的に続けている。メンバーは、家族代表・地域包括支援センター・市役所・他の法人の事業所・町内会・民生委員・元民生委員となっている。	新たな参加者をメンバーに加えてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加や市の介護保険課へ出向き、事務所の実情等の話をし、協力関係を築くようにしている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	窓口はホーム長と施設長とで縁を深めている。介護保険緩和ケアマネージャーが役割を担って更に深めている。どの関係機関ともわからないことがあれば気軽に相談できる関係が構築され、積極的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画の中での勉強会を行い、共有認識を図り、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	身体拘束はしていない。常に利用者本位の姿勢から、年間研修の中に2回身体拘束に関する研修を続けており、職員が先生役となって座学と事例とロールプレイなどをミックスした研修が開催されている。身体拘束の先には虐待があるという考え方を評価の場で聞き取ることができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、スタッフ全員共同認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられた。又、勉強会においても制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約に至る間、電話連絡などにより、不安解消に努め、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映している。又、ケアプランにも本人、家族の思いも反映している。	普段の何気ない時間に「ティッシュが欲しい」「パズルが欲しい」「あれが食べたい」「これが欲しい」から、言葉だけでなく仕草や表情から汲み取ろうとし、できるだけ早く実現できるように努めている。季節の変わり目には、利用者とできるだけ一緒に衣替えを楽しめるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたりしている。定期的にミーティングを行い、意見、提案を出しやすい機会を設け、反映させている。	全ては挨拶から始まるとのホーム長の考えから、日々の業務の中や半年ごとに施設長とホーム長との面談でプライベートなことをしっかり聞くようにしている。勤務調整は、職員同士で協力し合い、ゲートキーパー役のベテラン職員が、潤滑油となり、話しやすい風土も形成されている。	ゲートキーパー役がいるからこそ、新たな人を入れて幅の広い体制を取られてはいいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修、管理者研修、介護福祉士等資格取得の支援を行い、資格習得後は各自向上心を持ち、仕事に活かせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格習得希望者には勤務配慮をしている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ交流会に参加させて頂き、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事、困った事又不安に思っていることを言えるような環境を作り、傾聴共感し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り、困っていることや不安に思っていることが言えるように傾聴し、受け止められるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いで職員間で話し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方々との関係が途切れないように電話等支援に努めている。	根っから地域なので、地域が馴染みの場となっている。住民や保育園、教会の牧師さんなど、書道教室の先生のご入居者の生徒さんとの馴染みの関係が今も続いている。訪問理美容や移動スーパーなどの出入り業者やユニット間で洗濯物を畳み合いっこしたりして、すっかりと馴染んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わないを日頃から観察し、入居者同士支え合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し退去されてもいつまでも相談連絡できる関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、意向を職員全員で共有している。	家族とは、主に面会時に意見交換や毎月ケアマネが電話で状況報告をするなどして把握している。利用者へは担当制を敷いて、居室やお風呂、トイレなどパーソナルタイムを活かして、職員は気軽に椅子に座り、おしゃべりから「常に何かある?」と問題意識を持って意向を組み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック、ケアプランにより把握している。連絡ノートにより全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人、家族と必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に立てたプランを2週間後に見直し、半年毎や状態の変化や認定更新のタイミングに合わせて変更をかけている。モニタリングは毎月行い、往診と訪問看護の来所時には、必ず別室にてケアカンファレンスを行い、後の診察で、より細やかに実態に伴う介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の連絡情報交換により、本人や家族の希望に添えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として小学校や教会を訪問し、交流を深めている。コロナ対策の為、訪問は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医との関係は良く、何事も相談できる体制を取っている。	入居時に、元のかかりつけ医と提携医を選ぶことができるが、殆どのご利用者家族は利便性を感じて提携医に転医される。提携医は24時間連携で何でも話せる関係が構築され、通院の介助は原則家族対応としている。訪問歯科は週1回来所され、口腔ケアの重要性を促している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と話し合いながら早期退院も含め、情報交換できる関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き、それに添って重度化に伴う意思の確認をし、説明を行って医師の往診を受けられるなど支援している。	看取りを行っており、入居時の重要事項説明で、どこまでのことが事業所でできるかを説明する。看取り期にさしかかると、まず医師から職員へ、職員から家族へ医療関係者を含めて説明がなされ、改めて意向の確認をする。年間研修計画では、提携医がリードして研修が行われる。看取った後もデスクカンファレンスを通じて次に活かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	皆で勉強会を度々行い、全員で話し合い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定して避難訓練を定期的に行っている。	年2回、地震と水害の訓練を利用者とともに昼夜想定で行なっている。緊急連絡網とマニュアルを整備し、それに則った訓練をしている。備蓄は隣接のサ高住に3日ほど用意されているものと事業所内のケータリング食をいざという時に活用できるように意識づけ用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、親しみの中に礼節を保ち、本人の希望や意向の把握に努めている。	呼称は、苗字にさんをつけ、同性の方には下の名前にさんをつけ、本人や家族の希望で愛称で呼ぶ場合には、必ず家族に確認を取っている。肌を露出しやすい場面では、必ず扉を閉め肌が露わになったままにしないように、タオルをかけるなど配慮している。またそっと寄り添いケアもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の思いや希望が言えるような雰囲気をつくり、日々密接な関係が保てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況にあった暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、髪のカットをして頂いたり、男性の方の髭剃りを行う等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事や飲み物を楽しめるように支援している。	食事とおやつはケータリングスタイルで、週に一度移動スーパーとパン屋が来所している。できるだけ利用者にはお盆を拭いて頂き、配膳や下膳や食器洗いをして頂いている。敷地内に畑があり野菜や果物を収穫して、食卓にあがる日も利用者の楽しみとなっていて、昔話に華を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、1人ひとりのパターンに添って自立支援を行っている。	チェック表やご利用者の生活歴をデータ化し、放尿やトイレの場所の理解、便秘が解消されてイライラされなくなり、機能改善に役立っている。腸の働きの弱っている方がいれば、かかりつけ医と連携して運動プログラムや服薬の調整をし、職員のマッサージで、機能を改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、トイレ誘導、内服薬等を実施し、スムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間やシャワー浴など本人の希望に添った支援をしている。	入浴は、週3回が原則だが、要望があれば可能な限り毎日でも入浴できる。季節浴では菖蒲湯やゆず湯の提供がある。嫌がる方には、日を変えたり、「ちょっと用事があるから」「一番風呂が入ったよ」と、言葉をかけるとどうにか脱衣所まで来てくれ、気分も変わって気持ちよく入ってください。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣、就寝時間など睡眠パターンを把握し、昼寝やソファでくつろげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認表にて職員は1人ひとりの確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な分野を見極めて一人ひとりの役割や楽しみを見出し、気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に出かけられたり、スタッフと共に地域の行事等にも家族や地域の人々と協力しながら支援している。又、個々の散歩に行かれるなど支援している。現在コロナ対応にて控えている	天気が良ければ毎日でも散歩は行う。敷地内に神社を手作りしたので初詣が恒例行事となり、近所の公園も日常外出できるお気に入りスポットになっている。地域が馴染みとなっているので、ちょっと出掛ければ気軽に挨拶を交わし合える関係もできていて、顔なじみの関係も縁が続き、散歩が待ち遠しく、天気の良し悪しを気にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の貼り絵等を作成し、季節感を取り入れている。又、ソファを置き、生活感を出せるように工夫している。	適度な広さに落ち着いた利用者が思い思いのことがいつでもできるように安全性を持つ家具や寝所を配置している。快適な温度と合わせて、完成度も高い作品を身近に掲示し、思い出に浸り活発にお喋りができる。そして、経験を活かせる利用者本位のリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士お話されたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が懐かしいものや写真等を飾られていって。家族とお茶を飲んで頂いている。	シンプルかつ安全な居室となっていて、懐かしい写真を飾り、昔を思い出しやすい居室となっている。面会の方も個室でゆっくりと会話が弾み、帰り際に面会者を見送る利用者の笑顔が印象的だった。そんな我が家のおもてなしがいつでもでき、家族が集える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来る事は自分でして頂き、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	株式会社 縁		
事業所名	グループホーム 倉敷・楽々苑 (Bユニット)		
所在地	岡山県倉敷市西岡1153-1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200289-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「自然・安心・快適」を元に四季を感じ、安心して過ごして頂けるように、又毎日を快適に過ごして頂けるように職員一同心がけています。
 ご自分の好きなように自由に過ごして頂けるように、又どのように援助していけば楽しく過ごして頂けるかを考えて毎日を振り返っています。
 医療・歯科なども往診して頂いています。体調不良時にも早く対応して頂き、医療面にも安心して過ごして頂ける環境づくりをしています。
 地域の方との交流にも参加させて頂くなどし、楽しく、快適に過ごして頂けるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前向きに職員レベルを上げて、安心できる施設を目指している。一人一人の職員が意識を持って利用者個々に対応し、モチベーションを持ち、蓄積していく気付きを与えている。また、職員同士、経験を共有することから知識を広げ、使命感、責任感、帰属意識のある仲間として、力を合わせて仕事に活かしている。職場内で教えることが学びとなり、挨拶や手振りなどの身近なことで地域を巻き込むゆかり(縁)を深めている。隣接の保育園で試みている家族との絆づくりと同じように、人と人との交流を深め、快感となる職員同士の関係に浸透させている。職員の一人は、「やりがいがあって、楽しいです」と答えてくれた事も施設で働くことで、生き甲斐となっている。利用者もそんな職員に携われながら、日常生活が落ち着き、じっとしていても笑顔が節々に見えていた。安心してできる快適な生活が垣間見れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「自然、安心、快適」を職員全員が把握し、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	法人の理念と事業所の理念をフロアに掲示し朝礼で唱和している。新入職者には、2日間オリエンテーションがあり、OJTで最長2ヶ月間、法人と事業所の方向性を定めている。新年度に年間研修を立て、職員が先生となり、『教えることが学ぶこと』という実践から、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会、行事、小学校の行事、地域活動には参加し、交流を深めている。現在コロナ対応にて参加は控えている	町内会の回覧板で、地域と情報共有をしている。近隣には田んぼや教会、多くの住宅があり、子供たちと挨拶を交わすことも日常で、今までリアルに付き合ってきた関係性が培われたからである。また、事業所の敷地内に保育園が設立されており、送迎時の挨拶が、職員の癒しになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のお祭りや、教会のバザーやお祭り、小学校行事に積極的に参加し、地域貢献している。現在コロナ対応にて参加は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っている。他職種の方の参加をいただき、意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	リアル開催に繋げようと、密を避けるため分割開催をしている。従来の関係機関に電話をかけ、季節の挨拶として参加者が来場する中で情報交換を断続的に続けている。メンバーは、家族代表・地域包括支援センター・市役所・他の法人の事業所・町内会・民生委員・元民生委員となっている。	新たな参加者をメンバーに加えてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加や市の介護保険課へ向き、事務所の実情等の話をし、協力関係を築くようにしている。コロナ対応の為、実施延期が続いている。	窓口はホーム長と施設長とで縁を深めている。介護保険緩和ケアマネージャーが役割を担って更に深めている。どの関係機関ともわからないことがあれば気軽に相談できる関係が構築され、積極的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画の中での勉強会を行い、共有認識を図り、身体拘束について全スタッフが理解を深めるように努めている。	身体拘束はしていない。常に利用者本位の姿勢から、年間研修の中に2回身体拘束に関する研修を続けており、職員が先生役となって座学と事例とロールプレイなどをミックスした研修が開催されている。身体拘束の先には虐待があるという考え方を評価の場で聞き取ることができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の委員会の実施。年間の研修計画として勉強会を行い、高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、スタッフ全員共同認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様もおられた。又、勉強会においても制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約に至る間、電話連絡などにより、不安解消に努め、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聞き取り、運営に反映している。又、ケアプランにも本人、家族の思いも反映している。	普段の何気ない時間に「ティッシュが欲しい」「パズルが欲しい」「あれが食べたい」「これが欲しい」から、言葉だけでなく仕草や表情から汲み取ろうとし、できるだけ早く実現できるように努めている。季節の変わり目には、利用者と一緒に衣替えを楽しめるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞いたりしている。定期的にミーティングを行い、意見、提案を出しやすい機会を設け、反映させている。	全ては挨拶から始まるとのホーム長の考えから、日々の業務の中や半年ごとに施設長とホーム長との面談でプライベートなことをしっかり聞くようにしている。勤務調整は、職員同士で協力し合い、ゲートキーパー役のベテラン職員が、潤滑油となり、話しやすい風土も形成されている。	ゲートキーパー役がいるからこそ、新たな人を入れて幅の広い体制を取られてはいいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践者研修、管理者研修、介護福祉士等資格取得の支援を行い、資格習得後は各自向上心を持ち、仕事に活かせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行けるようにしている。資格習得希望者には勤務配慮をしている。苑内でも勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やケアマネ交流会に参加させて頂き、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が希望される事、困った事又不安に思っていることを言えるような環境を作り、傾聴共感し、受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り、困っていることや不安に思っていることが言えるように傾聴し、受け止められるような環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌な事はしない、との思いで職員間で話し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みのの方々との関係が途切れないように電話等支援に努めている。	根っから地域なので、地域が馴染みの場となっている。住民や保育園、教会の牧師さんなど、書道教室の先生のご入居者の生徒さんとの馴染みの関係が今も続いている。訪問理美容や移動スーパーなどの出入り業者やユニット間で洗濯物を畳み合いっこしたりして、すっかりと馴染んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わないを日頃から観察し、入居者同士支え合う雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し退去されてもいつまでも相談連絡できる関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを傾聴し、意向を職員全員で共有している。	家族とは、主に面会時に意見交換や毎月ケアマネが電話で状況報告をするなどして把握している。利用者へは担当制を敷いて、居室やお風呂、トイレなどパーソナルタイムを活かして、職員は気軽に椅子に座り、おしゃべりから「常に何かある?」と問題意識を持って意向を組み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族面会時等にこれまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録、バイタルチェック、ケアプランにより把握している。連絡ノートにより全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人、家族と必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居時に立てたプランを2週間後に見直し、半年毎や状態の変化や認定更新のタイミングに合わせて変更をかけている。モニタリングは毎月行い、往診と訪問看護の来所時には、必ず別室にてケアカンファレンスを行い、後の診察で、より細やかに実態に伴う介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の連絡情報交換により、本人や家族の希望に添えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として小学校や教会を訪問し、交流を深めている。コロナ対策の為、訪問は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医との関係は良く、何事も相談できる体制を取っている。	入居時に、元のかかりつけ医と提携医を選ぶことができるが、殆どのご利用者家族は利便性を感じて提携医に転医される。提携医は24時間連携で何でも話せる関係が構築され、通院の介助は原則家族対応としている。訪問歯科は週1回来所され、口腔ケアの重要性を促している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師により利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者と話し合いながら早期退院も含め、情報交換できる関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聴き、それに添って重度化に伴う意思の確認をし、説明を行って医師の往診を受けられるなど支援している。	看取りを行っており、入居時の重要事項説明で、どこまでのことが事業所でできるかを説明する。看取り期にさしかかると、まず医師から職員へ、職員から家族へ医療関係者を含めて説明がなされ、改めて意向の確認をする。年間研修計画では、提携医がリードして研修が行われる。看取った後もデスクカンファレンスを通じて次に活かされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	皆で勉強会を度々行い、全員で話し合い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定して避難訓練を定期的に行っている。	年2回、地震と水害の訓練を利用者とともに昼夜想定で行なっている。緊急連絡網とマニュアルを整備し、それに則った訓練をしている。備蓄は隣接のサ高住に3日ほど用意されているものと事業所内のケータリング食をいざという時に活用できるように意識づけ用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、親しみの中に礼節を保ち、本人の希望や意向の把握に努めている。	呼称は、苗字にさんをつけ、同性の方には下の名前にさんをつけ、本人や家族の希望で愛称で呼ぶ場合には、必ず家族に確認を取っている。肌を露出しやすい場面では、必ず扉を閉め肌が露わになったままにしないように、タオルをかけるなど配慮している。またそっと寄り添いケアもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の思いや希望が言えるような雰囲気をつくり、日々密接な関係が保てるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況にあった暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい、髪のカットをして頂いたり、男性の方の髭剃りを行う等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況に合わせて、食事や飲み物を楽しめるように支援している。	食事とおやつはケータリングスタイルで、週に一度移動スーパーとパン屋が来所している。できるだけ利用者にはお盆を拭いて頂き、配膳や下膳や食器洗いをして頂いている。敷地内に畑があり野菜や果物を収穫して、食卓にあがる日も利用者の楽しみとなっていて、昔話に華を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせた食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの状態にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、1人ひとりのパターンに添って自立支援を行っている。	チェック表やご利用者の生活歴をデータ化し、放尿やトイレの場所の理解、便秘が解消されてイライラされなくなり、機能改善に役立っている。腸の働きの弱っている方がいれば、かかりつけ医と連携して運動プログラムや服薬の調整をし、職員のマッサージで、機能を改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、トイレ誘導、内服薬等を実施し、スムーズな排泄を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間やシャワー浴など本人の希望に添った支援をしている。	入浴は、週3回が原則だが、要望があれば可能な限り毎日でも入浴できる。季節浴では菖蒲湯やゆず湯の提供がある。嫌がる方には、日を変えたり、「ちょっと用事があるから」「一番風呂が入ったよ」と、言葉をかけるとどうにか脱衣所まで来てくれ、気分も変わって気持ちよく入ってくださる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣、就寝時間など睡眠パターンを把握し、昼寝やソファでくつろげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認表にて職員は1人ひとりの確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な分野を見極めて一人ひとりの役割や楽しみを見出し、気分転換をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に出かけられたり、スタッフと共に地域の行事等にも家族や地域の人々と協力しながら支援している。又、個々の散歩に行かれるなど支援している。現在コロナ対応にて控えている。	天気が良ければ毎日でも散歩は行う。敷地内に神社を手作りしたので初詣が恒例行事となり、近所の公園も日常外出できるお気に入りスポットになっている。地域が馴染みとなっているので、ちょっと出掛ければ気軽に挨拶を交わし合える関係もできていて、顔なじみの関係も縁が続き、散歩が待ち遠しく、天気の良し悪しを気にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭は持たないようにしている。本人の希望で欲しいものがあれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の貼り絵等を作成し、季節感を取り入れている。又、ソファを置き、生活感を出せるように工夫している。	適度な広さに落ち着いた利用者が思い思いのことがいつでもできるように安全性を持つ家具や寝所を配置している。快適な温度と合わせて、完成度も高い作品を身近に掲示し、思い出に浸り活発にお喋りができる。そして、経験を活かせる利用者本位のリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士お話されたり、貼り絵や体操をされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が懐かしいものや写真等を飾られていっる。家族とお茶を飲んで頂いている。	シンプルかつ安全な居室となっていて、懐かしい写真を飾り、昔を思い出しやすい居室となっている。面会の方も個室でゆっくりと会話が弾み、帰り際に面会者を見送る利用者の笑顔が印象的だった。そんな我が家のおもてなしがいつでもでき、家族が集える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来る事は自分でして頂き、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		